

一方、核家族化の進展や地域コミュニティの喪失から、子育て中の親に対する支援が望まれており、平成 15 年度は地域に親子の交流・集いの場を提供した。平成 16 年度は親子交流施設の運営を継続するとともに、新たに地域流通券を発行しており、さらなる地域活性化を図るため以下の事業を実施した。

2. 事業内容

(1) 親子交流ひろば事業

主に乳幼児（0～3 才）をもつ子育て中の親子を対象として、子育てに関する不安解消を図るため、親子交流施設「親子のひろば まんま」を運営した。同事業は、保育室の運営等を手がける NPO 法人ワーカーズコレクティブ「さくらんぼ」が設置主体となり、子育て支援グループ「ちゃおNET」とともに運営している。

子どもを遊ばせながら親同士が談話できるスペースをはじめ、子育て情報コーナーや飲食コーナー、おむつ替えコーナー等がある。子育て相談や勉強会、各種イベントの実施により、きめ細かな支援を行った。

①概要

- ・ 設置場所：横浜市瀬谷区瀬谷 4-7-5
- ・ 開館時間：10:00～16:00
- ・ 閉館日：土・日曜日、祝日、年末年始
- ・ 施設面積：約 30 坪（うち 10 坪はショップ）
- ・ 付帯設備：冷暖房、冷蔵庫、電子レンジ、電気ポット、授乳スペース、ベビーベッド、幼児用円卓、トイレ（乳児用便座と踏み台）



助産士によるベビー
マッサージ指導

②利用料金

利用は有料であり、「ひろばを維持するためのお金」として利用者から料金を徴収した。

会員	入会金	¥1,000	兄弟で入会の場合、2 人目以降は不要
	年会費	¥1,200	毎年 4 月に更新
	フリーパス	¥2,000	1 ヶ月間有効
	回数券	¥1,500	5 回券、3 カ月間有効
ビジター券	¥500	入会金・年会費不要	
プレママ券	¥200	入会金・年会費不要	

③利用実績

1) 各月の利用者数

(単位：人)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	月平均	累計
154	93	157	171	119	158	108	110	87	115	154	100	127	1,526

特定非営利活動法人ワーカーズコレクティブさくらんぼ

2) 各プログラムの参加組数

(単位：組)

項目	参加組数	項目	参加組数	項目	参加組数
子育て相談	36	お話し会(朗読)	37	鏡開き	6
ストレッチ体操	70	おっぱい相談	21	豆まき	11
工作	33	お誕生会	35	親子遊び	8
リフレクソロジー	13	乳児食講演会	66	ネストランチ	8
キッズカット	14	おしゃべり会	77	石けん勉強会	7
プチ工房	29	クリスマス会	12	ひな祭り	7

3) 勉強会・講演会参加組数

(単位：組)

開催月	項目	参加組数
勉強会	5月 バッジフラワーレメディ	7
	6月 おなかの話	8
	8月 予防接種	12
	10月 自己実現講座	7
	11月 アロマセラピー	7
	1月 食について	5
講演会	テーマ：幼稚園選びどうする	13

(2) ショップ事業

「親子のひろば まんま」内の一部スペースを用い、利用者や地域住民から無償提供を受けた子供服等を販売し、売上を施設の維持管理経費に充てる。合わせてショップの利用者から地域情報を収集し、情報提供を行うなど情報交換の場として活用した。

①概要

- ・子供服等のリサイクル品、不要品等の無償提供を受け販売
- ・27のレンタル棚を貸し出し、棚の賃料(1,500円)と売上の5%を徴収

②利用実績

- ・年間ショップ売上：1,455,000円(1日平均約6,100円)
- ・年間レンタル棚収入：145,000円



リサイクルショップ



27のレンタル棚

(3) 商店街連携事業

地域流通券「まんま券」の普及や、連携イベントを通じて商店街との連携を深めた。

①地域流通券「まんま券」

- ・地域流通券は1枚当たり約300円相当
- ・施設のスタッフ等のボランティア活動や、ショップ事業の衣類無償提供の謝金として1枚発行
- ・地域流通券の協力店舗は18店舗、発行枚数849枚

②夏祭りイベント

- ・連携イベントとしてビアガーデンやコンサート、マジック、子ども縁日（金魚すくい、駄菓子屋）を実施
- ・夏祭りの推定参加人数は約100名



地域通貨協力店のステッカー

【 効 果 】

1. 近隣商店街への波及

施設の利用者やボランティア等の若い世代の来客が商店街に増えている。イベント等を通し、日頃は商店街の利用が少ない若い親子連れが商店街を訪れることにより、商店街の良さを知ってもらえる良い機会となった。

2. 近隣個店への波及

「まんま券」を通じて利用者と店主が直接話をするなど交流の機会が増え、利用者は個店の良さを再認識している。さらに店主の側もコミュニケーションにより顧客ニーズを把握できるようになった。

3. 来街者の行動

施設の利用者がより居心地の良い「ひろば」を作るため、プログラムを自ら企画し講師をするなど、施設運営に積極的に関わっている。毎月発行の「まんま通信」も平成17年1月号から会員が企画・編集を行っている。地域のボランティアや学生ボランティア等多くの応援者同士で交流が行われている。

【 課 題 ・ 反 省 点 】

1. 事業費の確保

施設利用料やリサイクルショップ・レンタル棚の運営により、一定の収入は確保しつつも、事業費の不足分は補助金で補っている現状がある。事業の継続的發展のためには、現在行っている事業以外の収入源を確保する必要がある。

2. 人的体制

施設利用者の自主的な取り組みが徐々に増えてきているものの、現在の人的体制では個人に対する負担が大きい。そのため新しい人材の確保が必要である。

【 関 連 U R L 】

親子の広場「まんま」&ふれあいショップまんま <http://www.h7.dion.ne.jp/~manma/>